



## 伝統とは改革の連鎖

大越 昌幸<sup>†</sup>

### Chain of Reforms Build Up Tradition

Masayuki OKOSHI<sup>†</sup>

レーザー学会の学生会員として入会させていただいてから、もうすぐ30年になる。当然ではあるが、学会を取り巻く環境はあれから大きく変わった。その当時、優秀でない学部4年生か修士1年生であった私が感じた学会への期待は、成書にはまだ記載されていないことを知る場であり、難解な専門用語の連鎖をノートにメモして、いろいろな方々の口頭発表の前後関係や図表から、その共通する意味を類推した。優秀な学生であったならば、その道程は必要なかったと思うが、ウィキペディアも無く、大学院生の先輩が極めて少ない環境であったこともあり、そうするしかなかったように思う。学会は当時の私にとって、その分野の最先端を耳から知る貴重で魅力的な場であった。また、これも今では当たり前となった修士1年生や、場合によっては学部4年生の学会発表も、当時はそれ程多くはなく、学会は「プロ同士の場」と強く感じていた。そのような背景から、これまで研究室の学生には、謙虚な姿勢で、と常に教育してきたつもりでいるが、学生にはたぶんその半分も伝わっていないと思う。これは学生の問題というよりは、私の方が常に工夫をしていくことが求められているということであり、そのような様々な工夫の積み重ねが、教育研究においても、その人の方法論を作り上げていくものと理解するようにしている。

さて、30年も昔の話を持ち出したが、当時私が学生として学会に期待したことは、「最先端を知ることができる」「発表の経験をさせていただく」ことであったように思う。後から考えれば、「自分自身の存在を知っていただく」ことも大事であった。これらは、少なくとも学生目線からは、今も共通することが多いように思う。ただその後、学際領域の研究の重要性が強く認識されるようになり、また学会会員数の減少等も重なって、国内の学会がそれぞれの裾野を広げ始めた。その結果、最先端を知ること、発表の経験をさせていただくことも、特定の学会の年次大会等に固執しなくても達成できてしまう。一方、2001年より15年程東京支部の幹事を仰せつかり、また最近では編集委員会、研究委員会にも参加させていただくようになって、少しだけ学会運営の末端を知る機会をいただいている。レーザー学会は、学生時代より育てていただいた学会であるので、やはり特別な思いがある。したがって、少しでも学会の発展に寄与できればと思っている。そういう視点に立てば、選ばれる学会になるためには、と私なりに考えることもある。

ところで、「伝統とは改革の連鎖」という言葉がある。レーザー学会も歴史のある学会の1つであり、これまで社会の要請が時代とともに大きく変化してきた中で、その時代毎に多くの会員の方々が、レーザーの有効性を実証しながら学会活動のバトンを繋ぎ、地道に努力を続けてこれら現在に至っているように思う。学会が今後益々発展していくためには、僭越ではあるが、会員の立場に立って、会員を第一に考えた「あらゆる企画」が重要ではないかと考えている。運営する側が、会員の方々がまだ意識していないことにいち早く気づいて、それを先行的に提供することでできれば、学会の差別化が図れそうな気がする。アンケートの中には、学会の進むべき方向の直接的な回答は載っていないように思う。会員第一の視点からは、学会内の連携も大切に感じる。各学会行事を実際に運営している委員や幹事の方々の顔が見えることも必要であろう。山に登らないと見えない景色を想像するよりも、今考えられることを、そして今やれることを積み重ね、常に良い方法を探し続けていくことが大事であると思う。学会の伝統を守っていくためにも。

最後に、地理・歴史学者のジャレド・ダイヤモンド氏の「文明崩壊への警告」という朝日新聞の記事を引用させていただく。同氏は、環境破壊や人口爆発は現代だけの問題ではないとし、古くはマヤ地域やイースター島での文明の崩壊例を挙げている。そして地球も、イースター島と同じように孤立した島であり、地球環境が破壊に至っても、別の星に移ることはできないと指摘している。今後の文明における最善のシナリオは「持続可能な道、すなわち先進国での資源・エネルギー消費を下げ途上国での消費水準を上げて両方をバランスさせること」、一方最悪のシナリオは「ソマリアで起きたような環境・人口問題を機に国家崩壊が世界中に広がること」とし、最善のシナリオへ向かう可能性は51%、最悪のシナリオへは49%と警告している。最近世界では、例えば自動車のEV化への急速なシフトなど、皆が最善のシナリオへ向かおうとしていることが感じられる。勿論、レーザー学会発展のための最善のシナリオの実現も信じている。

<sup>†</sup> 防衛大学校 電気情報学群電気電子工学科 (〒239-8686 神奈川県横須賀市走水1-10-20)

<sup>†</sup> Department of Electrical and Electronic Engineering, National Defense Academy, 1-10-20 Hashirimizu, Yokosuka, Kanagawa 239-8686